

平成23年度 第1回磐田市放課後子どもプラン推進事業運営委員会記録

日 時：平成23年7月1日（金） 午後7時～午後8時30分

場 所：磐田市役所西庁舎 303会議室

出席者：運営委員 齊藤実良、寺田義昭、加藤ゆう子、匂坂 滋、鈴木俊博、鳥居和子
鈴木哲也、飯田 稔、山口智子、西岡都子、西尾さとみ、鈴木 薫

教 育 長 飯田正人

事 務 局 教育総務課 高梨恭孝参事、水野健課長補佐、今井悦賀主査
学校教育課 佐伯泰司係長

1 開会

2 委嘱状・辞令書交付

新しい任期に基づく第1回目の委員会であるため、教育長から委嘱状・辞令書の交付を行った。

3 自己紹介

4 教育長あいさつ（概要）

東日本大震災で被災した子どもたちは、毎日が大変である。こうして子どもたちについての会合を持つことが出来ることはありがたいことだと思う。

磐田市放課後子どもプラン推進事業運営委員会は、平成19年度に文部科学省と厚生労働省が、総合的な放課後児童対策として「放課後子どもプラン」を創設した際、磐田市としての今後の事業方針を協議していくために立ち上げたものである。

昨今の青少年を取り巻く社会情勢は厳しく、児童の放課後の安全・安心な居場所づくりは重要な課題である。特に、今夏は東日本大震災の影響による電力需給調整に伴い、土曜・日曜日に保護者が仕事で不在となる児童への対応が課題となっている。

磐田市の放課後対策の状況は、放課後子ども教室は、福田・竜洋・豊田地区の6つの小学校で、放課後児童クラブは、市内23小学校区すべてで開催している。

なお、保護者の休日変更への対応として、7月から9月まで、富士見小児童クラブと豊田南小児童クラブにおいて、土曜・日曜日を開所する。

放課後子どもプランは、放課後子ども教室と放課後児童クラブとの連携をどの様に図っていくかなど、最適な放課後の過ごし方について協議するものと理解している。すばらしい磐田市放課後子どもプランの構築をお願いする。

5 委員長・副委員長の選出

正副委員長は、「磐田市放課後子どもプラン推進事業運営委員会設置要綱」により委員の互選で定めることになっている。選出方法は事務局一任となったことから、委員長に飯田稔委員（豊田地区放課後子ども教室コーディネーター）、副委員長に加藤ゆう子委員（主任児童委員）を推薦し、正副委員長に選出した。

6 議事

委員長を議長とし、議事を進行。

[議長] 平成22年度事業実施状況と平成23年度事業計画について、一括して説明後、意見交換を行う。

事務局から、「放課後子どもプラン」、「放課後児童クラブ」、「放課後子ども教室」について、実施状況及び事業計画を説明。

【主な質疑・意見等】

[委員] 委員としてやるべきことは何か。子ども教室、児童クラブの運営や課題について意見を言えるのか。

[事務局] 推進方法の是非や事業に対する意見を伺い、反映できるものは反映させたい。委員会の中で意見をいただきたい。

また、プランの大きな目的である子ども教室と児童クラブの連携について、各地区の実情に即した連携について協議していただきたい。

[委員] 補助金の有無に関わらず、プランの維持・拡大を行うのか。

[事務局] 補助金単価の引上げや児童クラブの土日保育に対し新しい補助メニューが検討されるなど、国の補助金は社会情勢に対応したものとなっている。プランに係る事業は、子育て支援や子どもの安全・安心の観点から必要な事業であると認識しており、補助金も継続するものと考えている。

[委員] 委員会は年何回開催するのか。2回目の議事の内容は。

[事務局] 7月と2月の2回を予定している。1回目は子ども教室と児童クラブの相互理解を深め、今後の連携方法を模索するきっかけにしたい。今後、各地区における連携について、方法や問題点等について検討し、来年2月の委員会で結果を報告していただきたいと考えている。

[議長] プランは昨年も示されたものである。プランに対する考え等があったら出していただきたい。新しい委員の方も、こんなことならできるかもしれないというものを出していただきたい。

[委員] 児童クラブと子ども教室の情報の共有化と連携は、今までも事業計画として出ていたが、2回目の委員会で具体的な連携が出てこなかった。

子ども教室について、拡大に努力してもらいたいといい続けてきたが、努力してい

ない。拡大の努力をしていただきたい。

児童クラブについて、民間の児童クラブについても情報を把握し、報告してもらいたい。

[議長] 昨年、委員会終了後、管理者を集めプランの説明をした。連携の第一歩として、お互いの活動内容を知るため、夏休みに児童クラブを訪問し、一緒に遊んだりした。児童クラブの半分以上の児童が教室に参加していることから、年度当初に計画すれば、一緒に活動することは可能であると思った。

[事務局] 子ども教室は、旧磐田市と旧豊岡村は、別の受け皿があったことから実施してこなかったが、行政としても全市的に拡大できないかと考えている。しかし、現在もボランティアでやってもらっているところであり、国や県の予算の問題もあることから、新たな拡大においても、ボランティアに頼らざるを得ない状況であり、行政として心苦しいところがある。

[委員] クラブの児童を教室に参加させることを連携と理解し、児童クラブから教室参加を呼びかけてもらったところ参加者増となった。しかし、何をどのように連携しろというのか分からない。結びつけることによってどうなるのか。将来、一本化したいということか。

[事務局] クラブや教室の運営方法によって連携の方法は異なる。これが連携の方法だという答はない。

両事業の目的や対象者が異なる中で、無理やり一体化することは、それぞれの事業の目的とは異なる結果となり、マイナスの部分が出ることも考えられる。両事業の目的をより効果的にするための連携を模索することが重要であるとする。

[委員] 各事業で同じようなことをやっているのであれば、連携する必要はない。プランは絵空事のように思える。

[委員] お互いに歩み寄る気持ちがあるかが重要である。

以前に、教室の先生が児童クラブで指導してくれたこともあった。

また、現在でも児童クラブの子を教室へ連れて行くと、地区でも活動をしている教室の管理員が温かく迎えてくれる。大変ありがたいことである。

[議長] 校長に管理員は学区の人から出して欲しいとお願いしている。子ども・保護者との関わりができる。

[委員] 教室開催中に事故が発生した場合、学校への応援依頼は可能か。

[事務局] 教室の主催者が必要に応じ医者に連れて行く等の対応が基本である。しかし、学校の児童でもあり、学校としても適切に対応する。

[議長] 連携に関して、一つのやり方はない。第一歩として、各地区でそれぞれの実態を知り合い、どんなことができるのかを考えてもらいたい。毎年同じことを繰り返すのではなく、2月の委員会で、こんなことをやってみた、こんなことならできそうだと

いったことを発表できるよう取組んでいただきたい。

7 閉会